「熱海伊豆海の郷を終の住み処として」

特別養護老人ホーム熱海伊豆海の郷
お客様　　鱒　毬（もたい　まり）

ある年の１０月５日、東京の友人の家で話し合いがあるとのことで、経堂の友人宅へ向かった。踊りや音楽の話だというので、宴会の準備を手伝おうと立ち上がって野菜でも刻むつもりで包丁をとったが、いつもと違い少し調子がおかしいので、止めてトイレに立った。用を足して出ようとしたらドカンと自分の倒れる大きな音を聞いた。それからがこの施設との縁のはじまりである。

それまで病院を転々としていたが、面接があり運よく入所することができた。

この施設での感想を聞かれて、今、書き始めているが、開所満５年だそうで、まずはおめでとうございます。最初のお祭りは良く覚えています。皆、喜々として仂いたり、飲んだり、食べたり、遊んだりしていましたね。

私は、体の左側の機能を失っておりますので、実に不便ですが、介護の皆様が、私の手になり足になり、今、何の不満もなく過ごさせて頂いております。４０年以上、大学に奉職しておりましたが、その終わりの頃から終の住み処をどこにしようか、楽しみに探しておりました。

そして、熱海に一室をみつけました。２年間位は一人で楽しく過ごしておりましたが、こちらのお世話になることになりました。今、何の心配もなく暮らしておりますが、ありがたい事と感謝の毎日です。ただ、持病持ちで禁「甘い物」が少々つらいと云えば云えましょう。時々、どうなっても、それまでと思う事もなきにしもあらずですが・・・。

こう云う施設の食事は、とにかく美味しくないのが定説ですが、私は、そう思いません。

なかなか深く考えてあって、味をいっぱいに引き出して提供されていると感心しております。

いつも我がままばかりのモタイですが、どうかよろしくお付き合いくださいませ。この会社を運営なさる役員の方々、日々、介護に明け暮れる方々、私達は、何か一つやっていただいても、「ありがとうございます」の心をその夜毎に忘れないようにしたいものです。

つたない文章ですが、お世話になっている皆様方に感謝をささげます。何かもっとというのでしたら、アンケート等になさってくださいませ。お答えしますので・・・。

２０１１年６月末日